

助成活動実績報告書

企画名	ウスイロヒョウモンモドキの保全と周辺環境調査
団体名	岡山県恩原高原ウスイロヒョウモンモドキ特別委員会

①活動の目的について

“絶滅危惧種”ウスイロヒョウモンモドキの保全を目的とする。

②内容について

- ・ 目視により発生個体数の把握をした。(7日間・延べ15人)
- ・ 生態を撮影して記録に残した。
- ・ 幼虫の食草であるオミナエシの苗を育てる活動をしている。
- ・ オミナエシの種を採取して、生息地に直播きをして生育を試みる。
- ・ 幼虫の発生期に、生息地に通じる道路の車両の進入規制をしていただいた。
- ・ 一般の方を対象とした現地観察会を実施した。
- ・ 地元の方々と祭りに参加して、活動の啓発活動をした。
- ・ 地元の協力を得て、生息地の草刈りを実施した。
- ・ ウスイロヒョウモンモドキの生息地をとりまく環境調査の一環としてライトトラップ調査を始め、ウスイロヒョウモンモドキを除く昆虫相の調査も実施して、環境の把握に努めた。

③この活動によって達成された成果

- ・ 2011年の発生個体数は約1,000頭程度と推測した。
- ・ 2010年の秋に生息地に直播きしたオミナエシが、少しではあるが苗として生育していることが確認できた。
- ・ 2010年に種から栽培している苗は順調に生育して、現在上齋原で保管して2年目の2012年に生息地に植栽する予定でいる。
- ・ 観察会を実施して、より理解をしていただいた。
- ・ ふるさと祭りに参加して、地元の方々に活動の様子をみていただき啓発となった。
- ・ 毎年実施している生息地の草刈り活動は、本種の保全に欠かすことのできない事柄で、保全のためになっていると確信する。
- ・ 周辺環境調査の一環として実施したライトトラップによる夜間調査で、蛾を中心とする昆虫相から周辺環境を推測した。(リストは現在製作中で5月の集いまでには編集作成いたします。)

④今後の計画・展望について

- ・ 目視による発生個体数の把握は、本種の把握をする上で不可欠のことなので継続して実施する。
- ・ 幼虫の食草であるオミナエシが減少していることから、オミナエシの増殖を緊急の課題として取り組む。
- ・ 草刈りの範囲が、3～40年前と比較してかなり狭いことから、草刈の方法を変更する検討をしたい。
- ・ 観察会やふるさと祭りへの参加をして、啓発活動は引き続き継続する予定である。